たくみ
TAKUMI
No.034
平成26年6月●夏号
信州名匠会
（題字：故　池田三四郎　前名誉会長）

歴史・文化・情緒あふれる近江八幡 ～現代芸術・感性を感じる佐川美術館

平成25年度研修旅行「近江八幡・比叡山・佐川美術館を訪ねて」

信州名匠会　平成25年度研修旅行は、10月26日・27日に22名が参加して行われた。今回は、近世の風情が色濃く残された近江八幡と、世界遺産・比叡山延暦寺、そして個性的で斬新な現代茶室も見学させていただいた佐川美術館と、新旧共にすばらしい建築・匠の技を堪能した。

佐川美術館にて

15代・楽吉座衛門の美に対するこだわり、それにこたえた匠の心に感動

楽吉座衛門館内部

佐川美術館は佐川急便の40周年事業の一環として1998年、比叡山を望む美しい自然に囲まれた琵琶湖畔に開館。2005年楽吉座衛門の作品の展示室とそれらの作品に調和する現代の茶室が増築された。

本館は、平山郁夫館・佐藤忠良館を内包したチタン葺き切妻の大屋根が2棟連なり、周囲に水庭を配し、軒の深いフォルムが印象的な建物であった。コンクリート打ち放し・出目地・丸柱のディテール等、宮本忠長設計の長野市立博物館と合い通じるところが多く見られた。

楽吉座衛門館は、本館の広大な水庭をさらに拡張し、その地下に展示空間、地上に茶室を配置した。楽吉座衛門館の照明デザインをしたアカリ・アンド・デザインの吉野弘恵氏にお越しいただき、この空間のために特別なブラックコンクリートを試みたことや、大型黒御影石割肌の大胆な使用法等、楽吉座衛門の美に対するこだわり等について説明いただいた。

楽吉座衛門館外部

その後、3班に分かれ、学芸員の説明を受けながら、緊張感ある感性豊かな素晴らしい空間を体感した。茶の湯・数寄屋のこころ・美を、現代の感性で見事に表現された空間を満喫、美術品の鑑賞も含め、半日たっぷり芸術を味わった。

研修旅行スナップ

初日は早朝に長野を発ち、100年以上の歴史を持つ日牟禮八幡宮の境内に店を持つ、明治5年創業の老舗菓子店「たねや」に直行した。たねやの田中氏にヴォーリズ建築の旧忠田邸を改築したカフェ等をご案内いただいた後、近江八幡の歴史を物語る建物の中で、きれいに彩られた昼食をいただいた。その後、アンドリュース記念館・旧八幡郵便局等のヴォーリズ建築をボランティアガイドの先導で見学。世界遺産、比叡山・延暦寺に向かった。延暦寺の総本堂の根本中堂、大講堂、法華総持院東搭等が集まっている東搭エリアを見学した。

近江八幡「たねや」旧忠田邸前にて

旧忠田邸について説明する田中氏

比叡山延暦寺　根本中堂

近江八幡「旧八幡郵便局」にて

研修旅行日程

10月26日（土）　須坂（（株）山二駐車場）－近江八幡（たねや、ヴォーリズ建築探訪）－比叡山 延暦寺－おごと温泉（泊）

10月27日（日）　佐川美術館－近江八幡－須坂

平成25年度研修旅行「近江八幡・比叡山・佐川美術館を訪ねて」参加者名簿

（22名。氏名・所属。順不同、敬称略）

鎌倉良収・久保和彦・（株）鎌倉材木店、岩井秀樹・岩井工業（株）、堀誠・堀光子・建築工房アカシア、久保美津季・久保あすか・（株）さつき苑、中沢智・中沢康敏・（有）中沢建具店、五明良平・（株）五明、西宮登喜男・（株）綿内瓦工業、野本英一・（株）二見屋、、宮沢郁夫・宮沢建築、黒澤忠・クロサワメタル（株）、高木茂美・松田・南信（株）、白石大陸・サンコー特機（株）、田中謙一・（株）角藤、手賀俊光・（株）降幡建築設計事務所、高梨廣男・（有）高梨建設、西澤広智・（株）宮本忠長建築設計事務所、中村明穂・野々山修一・事務局

会員に聞く
「たくみの仕事」Vol.23

現場できっちり納めるのがプロ 難易度高い仕事にトライしたい

有限会社　海野鉄筋工業所　代表取締役社長　海野政也氏（千曲市須坂）

profile●昭和35（1960）年11月18日、千曲市生まれ、53歳。社員14人。ご家族は夫人と一男二女。

「名匠会のメンバーで、どんな元請さんも断ってしまうような難しい仕事をやってみたい」。

「現場できっちり鉄筋を納める。それがわれわれプロの使命。さらに難易度の高い仕事にトライして、技術の高みを目指したい」と熱く語る。建設会社で建築現場の代理人を経験したあと、長野冬季五輪を前に家業に転じた。下働きから始まり一通り現場を経験した。12年前に父から経営のバトンを継いで現在は、技術力の向上と若手の育成を最大のテーマに奔走している。

「いまのゼネコンさんは商社で、技術屋ではない」と辛口だ。施工図も外注に丸投げしてしまうため、現場のことを完全に把握している代理人は少ない。過密配筋の設計のため、現場で鉄筋が納まらないトラブルもある。「鉄筋には空きが必要。現場で納まりません、ではプロは務まらない。事前検討をきっちりやり、こちらで図面を起こし、失礼かもしれないが、元請に言いにくいこともどんどん言っていく姿勢が大事だ」と訴える。

長く続いた建設業界の低迷期、鉄筋業界でも職人のプライドは崩れ去った。「廃業した同業者もたくさんいる」と唇をかみ締める。だが、アベノミクスなどの影響を受け、最近、少し潮目が変わってきた。長野県鉄筋業協会の会長という業界のリーダーとしての立場から、「いまをチャンスととらえ、状況を変えていきたい」と力を込める。社会保険を完備し、職人が年齢に応じた年収を得て生活設計ができ、定年後は年金で暮らせるというモデルをつくっていく考えだ。

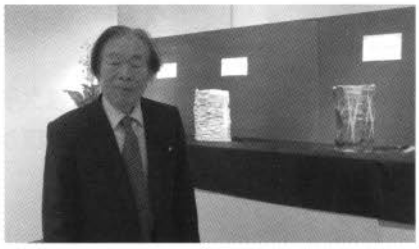
業界を取り巻く環境に少し明るさが見えたとはいえ、「（鉄筋は）本質的には技能職。技術の伝承がとても難しい状況に変わりはない」。若い人たちには、「どんなにいい仕事をしても最終的には見えなくなってしまう仕事。逆にそこに誇りを持ち、仕事好きになってほしい」と期待する。

直営の職人集団を抱え、高い技術力で知られる会社を支える大きな存在は78歳になった父でもある会長の海野竹雄氏だ。「加工場でボソボソと的確な助言をささやいたり、時には訪れた現場で大声で叱咤激励してくれたりする。それがうちの職人の意識と技術のレベルを自然に引き上げてくれている」と感謝する。「昨年採用した18歳の若者が、朝6時半の集合に一度も遅刻したことがなく、『仕事が楽しい』と言ってくれるんです」と目を細める。次代を担う鉄筋職人は、着実に育っている。（関卓実）

本社工場にて。「元請ともしっかり折衝して適正利益を上げ、職人が誇りを持てる会社にしたい。職人の復権です」。

樋口豊氏が「ユタカの新春陶芸展」を開催

2月13日から18日、会員の樋口豊氏（（株）ライフエンジニアリング・長野市）はギャラリープラザ長野（82プラザ長野内）で、趣味の陶芸作品の個展を開催された。氏は自身が携わった工事現場で採取した土を使って焼き物を作り、その作品を施主にプレゼントすることを、長年続けている。



会員に聞く
「たくみの仕事」Vol.24

情熱とこだわりのカーテンづくり 美しさは下げてみなければわからない

インテリア販売ヤマダ　山田一忠氏（長野市南堀）

profile●昭和25（1950）年7月26日、下水内郡栄村生まれ、63歳。92歳の母が一人暮らしをしている栄村の生家を定期的に訪れ、「農的な暮らし」を楽しんでいる。ご家族は夫人と二女、孫二人、おかめインコ一羽

「窓辺のおしゃれを、家の内側からも外側からも楽しめるカーテンを提案してきました」。

「カーテンの話を始めると止まらないんです」。言葉の端々にカーテンづくりにかける情熱と強いこだわりがにじみ出る。かたわらで「また、始まった」と微笑む一子夫人と30年近く、文字通り二人三脚でやってきた。

創業当時は、まさに住宅の新築ラッシュの時代。日本人の暮らしとともに住宅のスタイルが洋風化する中、「広縁や障子がなくなり、窓が主流になる」と時代を見越し、店を開いた。開店までの2年間、メーカーに通い詰め、生地や縫製技術などを徹底的に研究。「メーカーにはセンチ単位の寸法しかなかったが、うちはミリ単位で縫製していた。メーカーが、製品カタログの写真に使うカーテンの製作を、よくうちに依頼してきた」と笑いながら振り返る。

カーテンの素材は、生産工場の事情などから、アクリルがほぼなくなり、現在はほとんどがポリエステル100%。「本来は照明を吸収して色合いもきれいで、ドレープ（プリーツ。カーテンの折れ目）が美しく出るアクリルが最も適している」と少し寂しそうに語る。ポリエステルはしわになりにくく縮みにくいなどのメリットはあるが、ドレープが自然にはうまく出ないため、後で形状記憶加工を施す。

「カーテンの美しさは下げてみなければわからない」と言い切る。「広げたときに美しいドレープが出る。タッセルを使わなくても美しく納まる」がこだわりだ。“ひだ山”も創業当初から、「どんなに予算の少ないお客さんにも、仕上がりの美しい2倍ヒダをすすめてきた」。ほかの業者でカーテンをつくったお客が、「ばっと広がってしまい納めてもまとまらない。カタログと全然違う」と駆け込んで来ることも多いという。

お店で商談がまとまることはない。「そんなに抱えて」と笑われるほどの種類と大きさのサンプルを持ってお客（施主）の家を訪れる。「（見本帳の）生地選びがカーテン選びではないんです。部屋の感じ、窓枠や壁、床の色、照明の陰影といった条件にあわせてカーテンが決まるんです」と力を込める。

納品の際は、「カーテンを下げ、施主の声を直接聞くまでは帰らない」がポリシー。背中越しに「うわあ、素敵！きれい！」と聞こえる声が最高の喜びだ。（関卓実）

愛用のミシンでカーテンを仕上げる一子夫人と山田さん。

「陶芸家　村越久子　追悼展」開催

4月11日から27日、故・村越久子さんの追悼展「武石　雪しろ窯に思いを寄せて」が、煌庵（ともしび博物館茶室）ほか4会場で開催された。地域のみなさんに愛された氏の人柄が偲ばれた。

展示された村越氏の遺作「水指」

定例研修会●Report

（平成25年11月～平成26年4月）

平成 25 年度第 4 回研修会
【須坂　まち並みウォッチング（小田切家・ふれあい館まゆぐら他）】

平成24年11月23日（金）
講師：土本俊和氏（信州大学工学部建築学科教授）・梅干野成央氏（信州大学工学部建築学科土本研究室）・山田健一郎氏（JIA長野県クラブ　まちづくり委員長）・勝山敏雄氏（JIA長野県クラブ）・滝沢秀芳氏（須坂市まちづくり課）・小林義則氏（須坂景観づくりの会）
参加者：　22名（名匠会8名、JIA14名）

日本人の伝統美を守る職人の仕事

大正６年に建設された旧上高井郡役所からスタート

今回は、JIA長野県クラブまちづくり委員会主催の「まち並みウォッチング　IN須坂」に信州名匠研修会として参加した。須坂の景観計画策定や建物調査に深く関わる土本会長と梅干野先生（信州大学工学部建築学科土本研究室）と共に須坂のまちを巡った。

小田切家土蔵内部

信州大学土本研究室で調査が進む小田切家は、藩政時代に須坂の町年寄を勤めた家であり、維新期には須坂生糸改役をする等糸師仲間の代表格であった。ふんだんに欅の良材が使用されている主屋や主屋の屋根に包まれて建つ二号土蔵等、歴史を感じる建物を興味深く拝見した。ふれあい館まゆぐらは、当会会員の金田勝良氏が2カ月をかけて曳家をして保存再生した建物で、金田氏からお話を伺った。

その後、黒壁プロジェクトの現場を経て、ふれあい館しらふじ（明治期に建てられた旧丸田医院の母屋・土蔵・洋館風診療棟等を整備）を見学、参加者の意見交換も行った。

平成 25 年度第 5 回研修会
【「松田家資料保存整備事業」現場見学会】

平成24年12月14日（金）
講師：西澤嘉雄氏（(有)エヌ設計所長）
参加者：19名

職人たちの丁寧な保存整備工事に感嘆の声

千曲市八幡の武水別神社「額殿」とその西側に位置する松田家の保存整備事業を見学した。松田家は江戸時代後期から明治時代に築造された長屋門、主屋、蔵、塀などの約 20 を超える建物からなる建物群である。地元在住で事業に最初からかかわってきたエヌ設計の西澤嘉雄氏に保存整備事業について説明いたき現場を案内していただいた。

大頭祭の様子。右奥が改修中の「額殿」。

松田家の保存整備事業は平成 17 年度から行っており、これまでに修復整備が完了した「主屋」は長野県宝に指定されている。現在は 13 の建物が修復され、その他市指定文化財の建物などの修復が進んでいる。

引き続き武水別神社「額殿」を見学した。この日、神社では400 年の歴史をもつ「大頭祭」と呼ばれる祭事が行われていて、大勢の観衆に見守られる中、氏子衆が赤い和傘をかざし、練り歩いていた。伝統的な屋敷、神社にお祭りと日本の地域文化を肌で感じられる有意義な研修会となった。

平成24年度 【新年会】

平成25年１月23日
ホテル犀北館
参加者33名

職人の知恵と技術を受け継ぐ集団に

新年会で土本会長は、「現在の建築界において、職人の持つ知恵と技術を次の世代にどう受け継ぐかをしっかり考えていかなければいけない」と訴え、信州名匠会の今後の活動に期待すると語った。懇親の中で、信州の名工として県知事表彰を受賞された宮澤郁夫氏と、国土交通大臣表彰を受賞された坂田守夫氏が紹介され、祝賀ムードの漂う明るく楽しい新年会となった。

平成 25 年度　第 6 回　研修会
信州名匠会リレートーク VOL 1
【民家再生の降幡氏が歩み語る】

平成26年2月25日(月)
宮本忠長建築設計事務所
プレゼンター：降幡廣信氏（(株)降幡建築設計事務所）
参加者：20名

○ヨーロッパ視察が転機に○

信州名匠会が今年から始めた、会員が自分の仕事へのこだわりや思い出について語るリレートークの第1回目。副会長で民家再生の第一人者の降幡氏は、パイオニアとして本格的に民家再生を手掛けるようになったいきさつや、「和風の神髄」について思いを語った。

戦後、建築の専門学校で学び、「西洋建築」に対して強い憧れを持った降幡氏の転機となったのは、昭和 40 年の 35 日間に及ぶヨーロッパ視察旅行だという。「今まで思ってもみなかった日本の文化が対照的に際立ち、その素晴らしさに気づかされた。日本を勉強し、日本人として誇りの持てる仕事をしようと決心して帰国した」。

建築史家の故・関野克氏とのエピソードを披露。「当時、

和やかな笑みで「和風の神髄」を語る降旗氏。

文化財保護委員で東大名誉教授だった関野先生が、私の手掛けた穂高の再生民家をご覧になり、『もしかしたらこの手法は日本の建築文化の新しい扉を開くことになるかもしれない』と言ってくださった。これが金言となり、その後の目標が定まった」と語った。「師匠はいなかった。和風の神髄は職人（の技）から学んだ。和風住宅は、日本という特殊な気候、風土で育った自然素材でつくるからこそ住みやすいのだと思っている」と、信念を語った。

平成 25 年度　第 7 回研修会
信州名匠会リレートーク VOL2
【「型枠」の現状・将来を語る】

平成26年3月26日（火）
宮本忠長建築設計事務所
プレゼンター：井内猛夫氏（(株)井内工務店）
参加者：20名

○技術継承に強い危機感○

井内氏は、型枠工事について、打ち放しなどコンクリート建築用のラワン合板の質が悪くなってきている状況や、バイブレーターのかけ方などコンクリートの打ち方を知らない職人が増えていると指摘。「かつてのような美しい平滑面の打ち放しコンクリートの建物を造るのが難しくなってきている」と憂えた。また、現場を統括するゼネコンなどの若い技術者に、「型枠工事の命ともいえる施工図を高い精度で描けない人が多い。コンクリートの打ち込みは現場の集大成。下請け任せにせず、現場責任者は必ず立ち会うべきだ」と強く訴えた。

頭も技術も体力、感性も使う型枠工事の魅力と難しさを語る井内氏

井内氏は、「型枠工事の醍醐味は図面を読み取り、何もない空間に形をつくり上げていくこと」と誇りを語った。その一方で、「造作大工から型枠大工に転じた図面を読む力のある人に比べると、型枠一本の人は厳しい。若い人を迎え、一人前に育てていくのは至難の時代だ」と顔を曇らせていた。

平成 25 年度第 2 回理事会

平成26年4月14日（日）
宮本忠長建築設計事務所
出席者　13名

平成 25 年度第 8 回研修会
【善光寺参拝とお花見】

平成26年4月26日（土）
場所：善光寺・城山
参加者：18名

4月は毎年村越先生にお世話になって「陶芸製作とお花見」を行っていましたが、昨年残念ながら先生がお亡くなりになりました。本年もぜひどこかでお花見をしたいという声があり、会員委員会で企画していただいた。善光寺本堂でお参りした後、城山の花見茶屋でお花見。心行くまでお酒をいただきながら懇親を深めた。

個人会員・左官職人 轟（とどろき） 光洋（みつひろ）氏　ご逝去

平成26年2月14日、享年63
哀悼文　同級生・有限会社N設計　所長　西澤　嘉雄

故人・光洋君は、彼の父・富雄氏より伝統技術の左官業を伝授された2代目壁塗り職人だった。近年の新建材仕上げの多い時代に、神社・寺・古民家・土蔵・土塀等の在来工法による土壁・白壁塗りを多く手掛けていた。最近の仕事では、私とともに長野県指定史跡「武水別神社神主松田家館跡」を整備する、千曲市発注の松田家資料保存整備事業の現場に10年近く携わっており、県宝「松田家住宅主屋」を含む江戸から明治時代の古建築復原工事の左官工事を担当していた。

父の代より松田家の出入職人だった「轟左官」の職人魂は、約2千坪の屋敷内のいたる所に残されていた。石工、大工、左官、瓦工、建具工、庭師と長年続いた普請工事の中でも、左官工事が一番工期も長く大変であったという。

本工事でも文化財修復という重要な職種で、奥様と二人で暑い日も寒い日も二人三脚で仕事に追われる毎日であった。屋敷内にある竹林の竹を加工し、小舞壁を組む。既存壁の土を汗にまみれながら練り直し、荒壁付・中塗り・上塗り・仕上塗りとコテをひねり時間をかけ、こつこつと丁寧に、父より受け継いだ技で手際よく仕上げていた。

「次の仕事には乾燥時間を十分取ってもらわないと、いい仕事出来ないな!」と、何度も笑顔で私にアドバイス…主屋玄関のタタキ土間については自分の仕事に納得がいかず、良い粘土を探して何度も失敗を繰り返して仕上げたと語っていた。

真剣に取り組む職人根性で築いたこの長年の現場に、頭が下がる思いでした。この整備事業も後1年で完成を迎えます。早すぎた匠職人の他界に残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

奥様の差し出しに受板を出す轟氏（中央）。松田家の土壁荒壁付け（平成24年11月）

会員の動向 平成24年6月～平成25年6月。順不同・敬称略

○担当者の変更　(株) 第一ネームプレート　前任・市川均／新任・久保滋幸
○入会　個人会員　合屋達三・(株)ミツルヤ製作所・家具製造／〒399-0005　松本市野溝木工1-7-14／TEL　0263-25-8333
個人会員　宮内計臣・(株)宮内・左官／〒387-0015　千曲市大字鋳物師屋684／TEL　026-273-2318
個人会員　月津洋一・木製建具・(株)長門屋／〒387-0021　長野県千曲市稲荷山364-1／TEL　026-285-9122
賛助会員　祢津　吉通・(株)ミツルヤ製作所・家具製造／〒399-0005　松本市野溝木工1-7-14／TEL　0263-25-8333／FAX　0263-26-8889
○退会　個人会員　渡辺昌祺・硝子工事・渡辺硝子建材(株)　○逝去　顧問　村越久子・陶芸家・雪しろ窯　個人会員　轟光洋・左官・轟左官

たくみ No.032 信州名匠会ニュース
発行日：平成 26 年 6 月 25 日
発行者：信州名匠会　会長　土本俊和
編集者：信州名匠会事務局
制作協力：文屋
連絡先：（株）宮本忠長建築設計事務所
事務局：西澤広智・中村明穂・中山貴史・関卓実・吉田雅彦・木下豊
〒381-0012　長野市柳原 1875-1
TEL：026-241-5510　FAX：026-243-0187
http://www.meisyokai.com